



2022.12.11 「生産性プロジェクト」如水会鎌倉支部講演

3年半に及んだ日本の生産性に関する研究報告「今なぜ生産性か」について、本年2月開催したオープンフォーラム「日本の低い生産性 原因に迫る－なにをなすべきか－」のアンコールを如水会鎌倉支部会から要請いただいた。

12月11日、生産性リテラシー普及の一環として、プロジェクトリーダー石坂芳男財団理事長が同支部会如水サロンで講演をおこなった。



少子高齢化が進行する中で、今後の人口減少に伴う経済成長の低下をいかに軽減させるか。

G7諸国の中で、日本が最も労働生産性が低いのはなぜか。その原因と日本の現状。

とくに、産業構造では、明治維新後の産業近代化着手の遅れによる影響は、1990年代でG7諸国に追いついたところ、労働力構造の転換では、バブル崩壊の経済混乱により、諸国に遅れをとることになったと石坂氏は説明。

労働力構造上、就業者のスキルレベルにおいてG7国との間に顕著な差があること、昨今、政府が推奨するリスキリングをはじめとする、全就業者のスキルアップは生産性の向上に不可欠の施策であること。

世界各国においても、デジタル化をはじめとするスキルアップの必要性は共通の課題になっている。日本も手をこまねいている余裕はないと述べた。



意識の高いことで定評の当支部会メンバーから真剣な質疑がつづき、今後のリテラシー普及活動へ多くのサジェスションを得た。

本研究を推進した社会生産性研究会（斉藤惇座長）では今後、地域での生産性フォーラム開催をはじめとする活動で生産性リテラシーの普及に注力する計画である。